

参考資料 2

U_{rban} + P_{lanning} VISION 2050

2050年の社会像・都市像に関するアンケート 結果報告

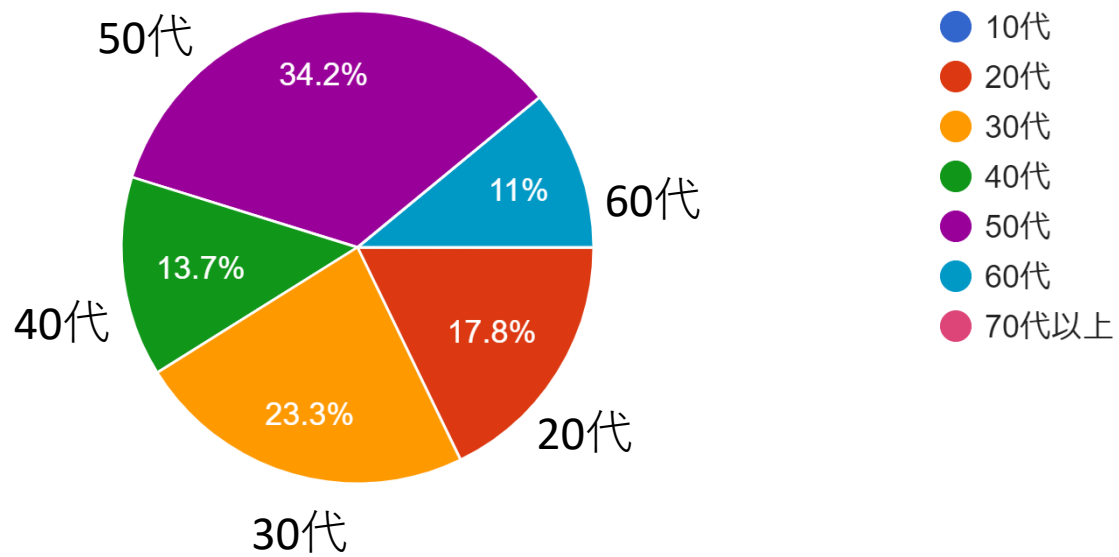
2020年 12月
2050年都市ビジョン研究会
- (一社)都市計画コンサルタント協会 -

調査概要

目 的	中間とりまとめにおける論点のあり方、方向性を確認し、最終とりまとめに向けた研究会の議論の参考とする。
対 象 者	都市計画やまちづくりの専門家、行政、学生等
実施期間	2020年9月～10月31日
回 答 数	78件

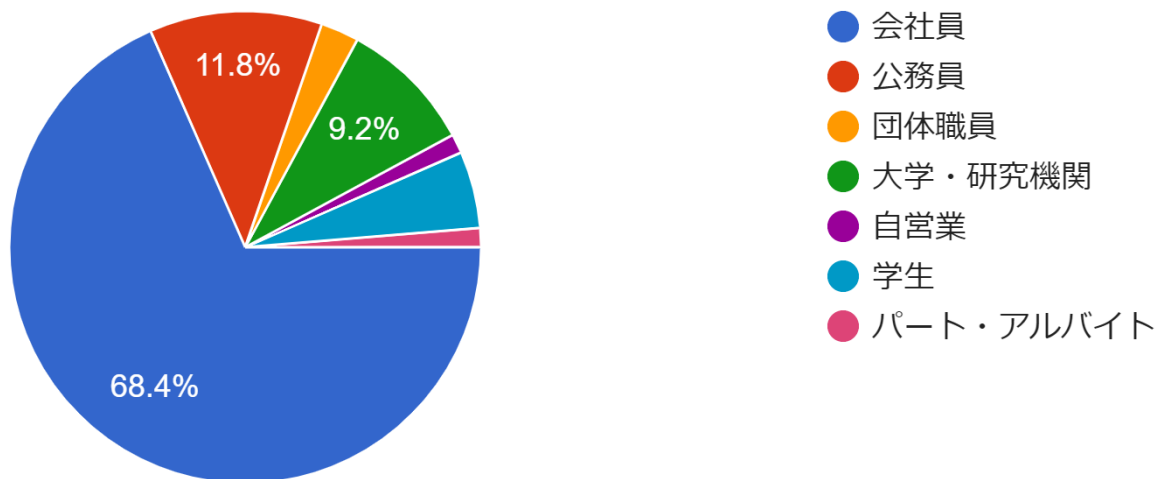
Q0-1 年代

73 件の回答



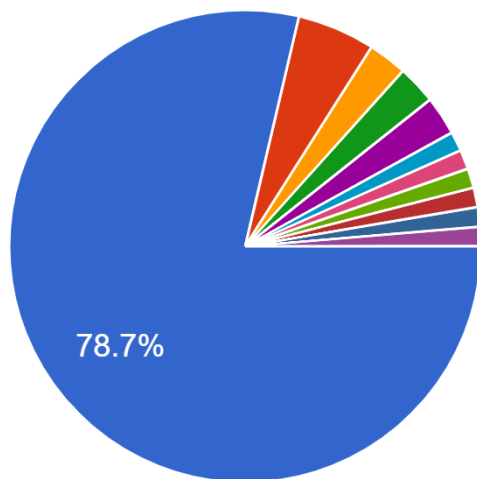
Q0-2 職業

76 件の回答



Q0-3 専門分野

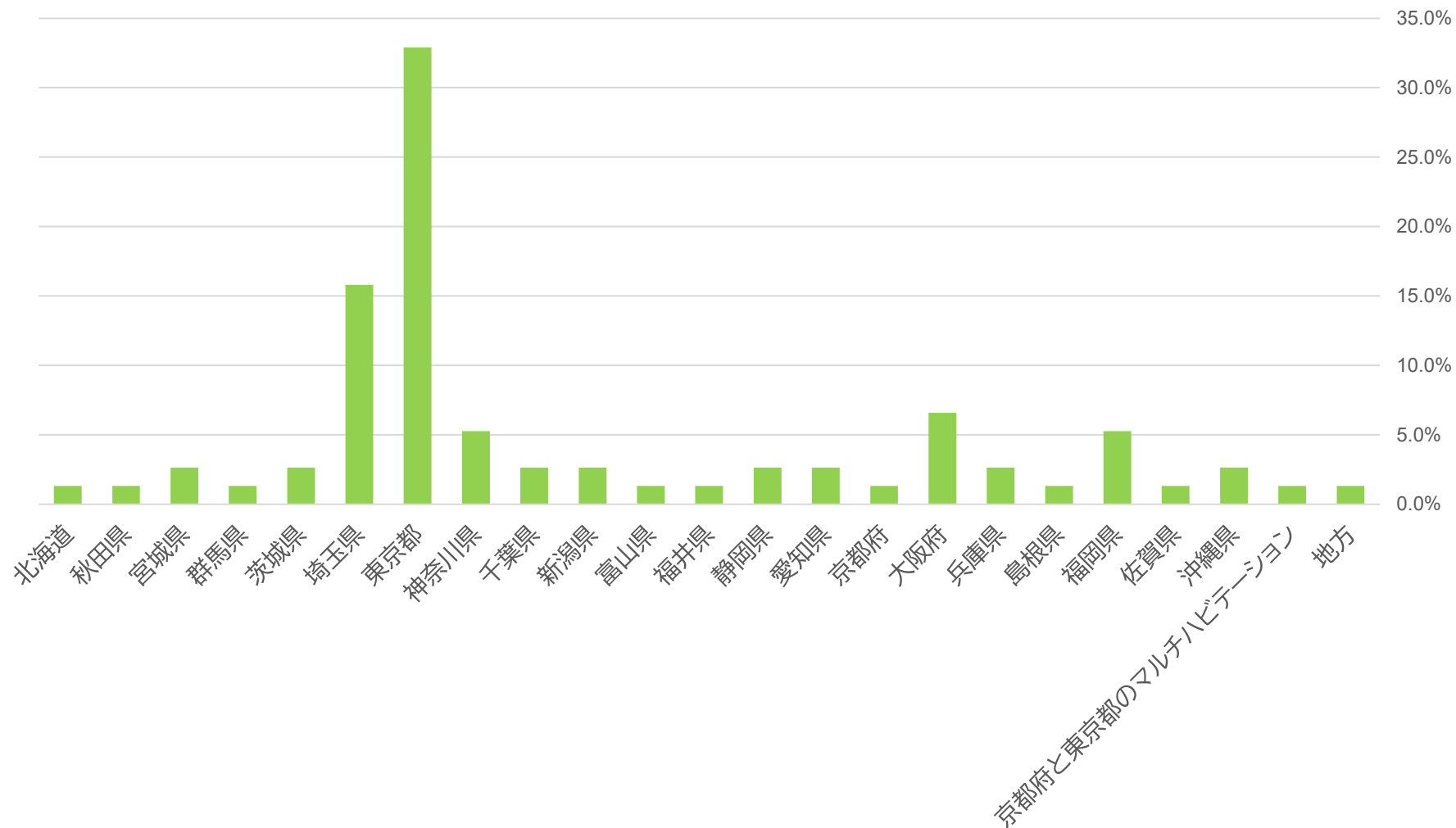
75 件の回答



- 都市計画関係
- 土木関係
- 建築関係
- 造園関係
- 不動産関係
- 企画政策
- 産業分析
- 教育関係
- 企画政策
- 産業分析
- 映像制作、WEBマーケティング

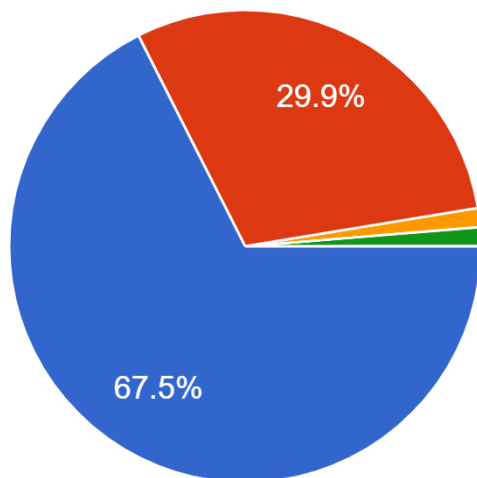
Q0-4 居住地(都道府県)

76件の回答



Q0-5 居住地（お住まいの地域に最も近いエリアを選択してください）

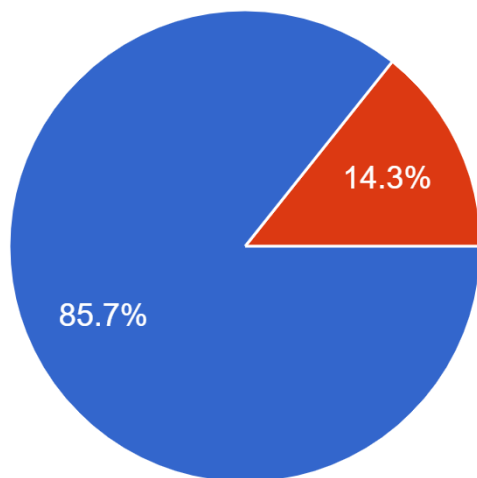
77 件の回答



- 都心部：大都市と地方都市(東京都23区、政令指定都市、中核市、特例市程度の規模の市)の市街地を指します。
- 郊外部：上記「都心部」の周辺部、または特例市未満の規模の市、町全般を指します。
- 農山漁村等：上記「都心部」「郊外部」以外の村や集落等全般を指します。
- わからない

Q0-6 勤務地（職場のある地域に最も近いエリアを選択してください）

77 件の回答



- 都心部：大都市と地方都市(東京都23区、政令指定都市、中核市、特例市程度の規模の市)の市街地を指します。
- 郊外部：上記「都心部」の周辺部、または特例市未満の規模の市、町全般を指します。
- 農山漁村等：上記「都心部」「郊外部」以外の村や集落等全般を指します。
- わからない

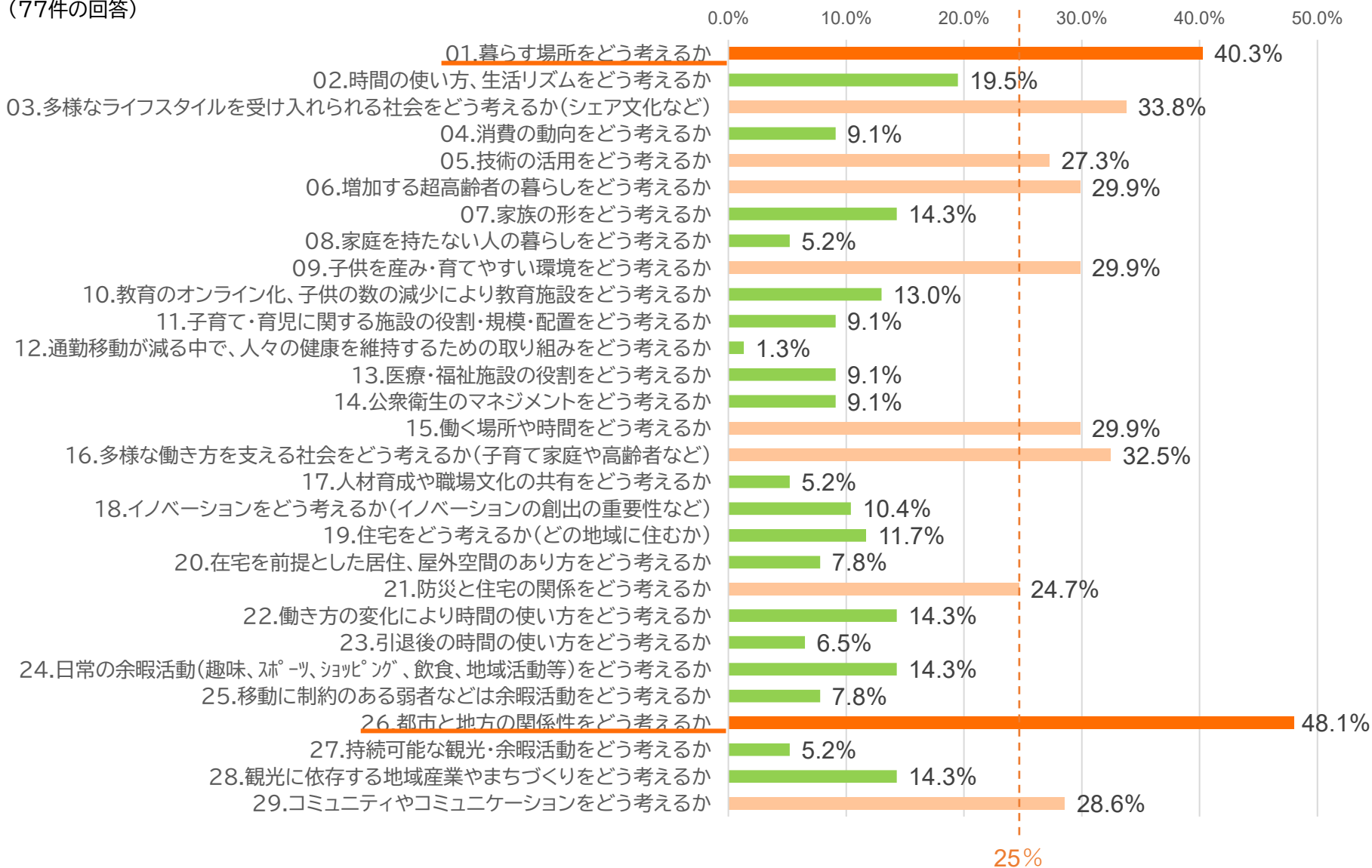
Q1-1 「議論 1 - 1、 1 - 2」 にあげられた前提条件について、異なるご意見や、追加すべき前提条件がありましたら、お聞かせください。（回答者数 21人）

- 産業構造の変化が進む。フリーランスや在宅でできる仕事が増え、それに追従できない企業は衰退・倒産が今後増加していく。
- 議論 1 - 1 「市民・企業の自主性・自発性に基づく活動の活発化」について、企業の社会的責任が重要視されるのは理解できるが、市民のボランティア活動がより活発化するというのは？
- ソーシャル・イノベーション。
- 2050年を考えるにあたり、「アフターコロナ」を踏まえる理由がよく分からない（アフターコロナは5～10年程度ではないか）。短期的影響と中長期的影響を分けて考えたほうが良い。
- 国際競争の激化等の国際関係の考慮
- 条件設定・課題設定が5～10年後に起きそうなトレンドでしか設定されておらず、期待外れ。長期的な展望も、天変地異がおきた最悪の未来から、画期的な科学技術の進展、全世界の融和・恒久平和などによる素晴らしき未来など、いくつかのレベルに分かれたシナリオを描いた上の複数の2050年将来像を設定すべき。その為、もっと大胆に条件設定すべきだと思う。また、科学技術の進展と、地方中小都市の中心市街地における土地（利用）問題（相続、所有者不明土地、低未利用地、税制、公共性の高い民有地）なども取り上げて欲しい。
- オンラインによるコミュニケーションの進展は不可避だが、その裏返しとしてリアルコミュニケーションを渴望する動きが生まれることが確実。
- ウォーカーブルなまちづくり
- 情報インフラ等のセキュリティー社会の構築

- **P13**「人の移動が真に必要なものに限定される」→コロナ禍を踏まえ「移動」の在り方は変わるの間違いはないが、「必要なものに限定される」かどうかはわからない
- 前提12において「メンテナンス」や「ストック有効活用」とあるが、「廃止」「廃棄」という観点も含める必要がある。テロリズム等の暴力的事象への備え
- 外国人の受け入れ拡大に伴う多様な文化・生活習慣の混在化
- 所得格差の更なる拡大を起因とする防犯まちづくりへの意識の高まり
- 経済格差の拡大と階級化
- AIの普及による「失業者の増大・貧富格差の拡大」
- 相当規模の地方都市でも高齢者人口と生産年齢人口が同数あるいは逆転することが想定され、担い手確保を目指した働き続ける環境以外に、高齢者による都市活動が中心となることを前提としておく必要があると思います。
- 医療技術の進歩、食料自給などはどの項目に入るのでしょうか。
- 前提条件が極端に変化する可能性について言及することや、極端な変化をした社会における都市づくりについてもあわせて考えて見たら良いのではないか。
- 現状のプライマリーバランスを維持していれば2050年までには財政破綻は必至であり、社会保障費を大幅に削る必要が生じると思われる。団塊の世代が後期高齢者となる2030年以降は、少数の介護者でより多くの被介護者を見ることができるよう、技術によつての介護の質の維持が必須になってくる。

Q2-1-① 「生活から考える2050年の理想の社会像」の1～29の論点のうち、特にどの論点が重要だと思いますか。＜最大5つまで＞

(77件の回答)



**Q2-1-② ①で上げたテーマについて、2050年はこうなってほしい！
こうなるべき！などのお考えがあれば、お聞かせください。
(回答者数 35人)**

- 都市内のどこに住んでも、土の地面と緑、そして小動物のいる公園・緑地に徒歩で気軽にいけること
- 生活全般について選択肢を増やすこと、選択肢を選ぶことが（制度的・社会的に）可能な社会
- 高齢者の介護をより効率的に行うために都道府県単位で大型の介護・福祉施設を建設
- 都市と地方のバランスある発展、外国人にとって暮らしやすい都市
- 遠隔医療で、多くの患者さんが適切な医療が受けられる
- 感染症対策としての混雑回避の一方で、多くの友達をつくれるリアルでの学校は必要で、そのような機会を維持するための方法を検討すべき
- 東京一極集中を是正し、首都圏の高密度空間を低減し、地方都市への機能分散を推進 / 外国人の労働・居住を受け入れ、国力のグローバル化・ダイバーシティ化を進める / 都市機能の地方への分散・平準化と外国人による人的資源の強化を進める一方で、日本古来の歴史文化・地方がもつ固性の保護・保全・育成を進める
- 物やお金が無くても、幸福を感じられる生活
- 暮らす場所が大都市圏から地方へ分散し、地方の空き家・空き地が居住やオフィス、コミュニティスペースとして利活用される社会になってほしいと考えます。
- 緑あふれる田園都市
- 多様な働き方がなされ、それに伴い豊かな住生活環境が広がっていて、建物の形態に多様な変化がもたらされている
- 安心して余生を如何に楽しく暮らせる、未来の生活へ希望が持てる社会

- 一極集中の解消、人間らしい暮らしの実現、ITを駆使した働き方改革
- シェア社会におけるレスポンスビリティ
- 屋外での自然な過ごし方（屋外の公共空間などをイベントや無理やり利用ではなく、日常的な生活の空間として自然に使いこなす、いわば文化をつくっていくことが必要）
- インバウンドに頼らず、内需喚起を目指した身近な観光や魅力の向上、関係人口の拡大。
- 現在のハザードマップ等危険区域にある街の防災対策ができていない街づくりの構築
- 新しい技術（ICT、AI、自動運転、リモート等）を活かした都市のインフラ整備・更新や地域間のネットワークにより、多拠点での生活・暮らし
- 私と公の社会構造の見直しが、都市構造の見直し（ハード／ソフト共に）に繋がるような流れができるのではないか
- 安全安心（防災防犯等の面）で快適な居住環境
- 都市と地方、貧富の格差が大きくなっており、それが是正された社会
- 換わるべき変化を許容しつつも伝統・歴史・文化などは極力残す
- どこでもいつでも働ける環境は良いことだが、何事にも制約されない完全に自由な環境もまた、社会とのつながりを実感することが難しく、暮らしていて面白くないと考える。「ちょうど良く」自由な環境が実現してほしい。
- より付加価値の高いものを創り出すことで豊かさを求める社会
- 教育の場、学校という組織が今よりオープンになって欲しい
- 教育分野から改革をし、社会的な共同生活について思考可能な人材がもっと増えていけばいいと思う。そのために子育てにストレスのない社会が必要
- 研究開発への投資を増やし、研究開発において先進国である。

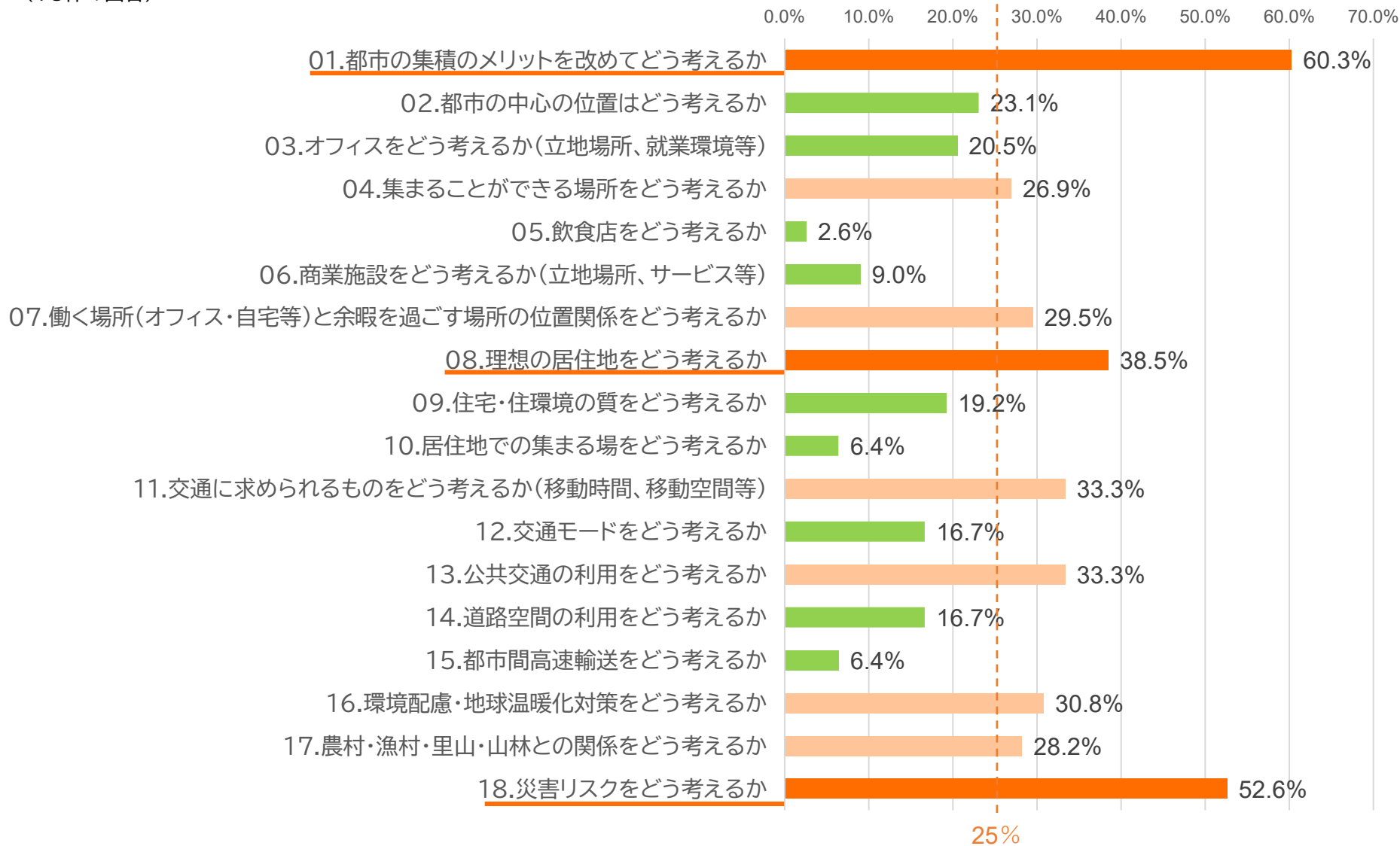
Q2-1-③ 追加すべき論点がありましたら、お聞かせください。 (回答者数 19人)

- 日本語のできない、外国人との共生
- 都市農業のあり方
- ベーシックインカムが導入された場合における産業構造の変化の可能性
- 論点が多すぎ、全体を貫く方向性が見えない。バックキャストिंगのはずなのに「～したい」が見えてこないため、全体的にワクワクしない
- 首都移転・バックアップオフィス
- 科学技術の発展は間違いないと思うが、多くの国民がそれらを享受し、ストレスのない社会生活に順応していくための教育の充実も大事。
- 高齢者偏重の解消
- 公共公益施設の分布・機能をどう考えるか（小規模分散か大規模集約か、単機能か機能の複合化か、など）
- 防犯まちづくり・Gated Community
- 教育という狭い分野でなく、社会生活のなかで教養や知識を育むしくみ
- コンパクトシティーの見直し対策等
- 都市が縮小しても、移動の制約を取り除くこと（自動運転運転、超小型モビリティ、リモート）で、楽しい暮らし（モノ消費からコト消費へ）ができること。
- SDGsのような、目指すべき社会像を参加者同士が共有する仕組みを作れるコミュニティが生き残るような気がする。
- 地方都市や地域の自立（大都市への経済依存ではなく）のためにはどうすればよいか？

- 人々の移動のあり方について深掘りして欲しいと思います。
- イベントや社会実験など、その時の社会の変化に臨機に対応する取組についてどう考えるか。
- 固有の気候特性や歴史に育まれてきた地域の文化や特性についてどう考えるか。
- 地形、土壌、気候等の自然条件と暮らしについてどう考えるか。
- 都市内農地の在り方、低炭素社会の実現、都市内の生物多様性。

Q2-2-① 「理想の社会像を踏まえた将来の都市のあり方」の1～18の論点のうち、特にどの論点が重要だと思いますか。〈最大5つまで〉

(78件の回答)



**Q2-2-② ①で上げたテーマについて、2050年はこうなってほしい！
こうなるべき！などのお考えがあれば、お聞かせください。
(回答者数 28人)**

- テレワークが進展することにより地方移住がより進展し、地方都市の活性化が進む
- ミックスユース（用途混合・混在）については、建物レベル・土地利用レベルで様々な必要性が喚起されており、異用途の区分は根本から見直す必要があるように思われる。
- 食料自給率の向上を目指し、機械の導入による効率的かつデッドストックの少ない農業の実現
- 過疎地域、交通弱者にとっても移動のストレスの少ない社会
- いつでも、どこでも仕事ができることと、私生活のメリハリがあること
- どれだけテレワークが進展しても、最低限の交通サービスと、公園・飲食店等の社交場を、人の移動が減っても維持できるような方策の検討は必要
- 科学技術の進展により、公害や交通問題など大半の都市問題は解決されているはず。地球環境や大自然災害に強い都市をつくる必要。その為、コミュニティの強化と都市の分散化が重要
- 現在のコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を基本とし、新しい生活様式に対応しながら都市の集約を図るべき
- 都市と農村の結婚
- サービスが多様化する中、「自由な市場」を尊重する社会環境であってほしい。
- 居住の場所における歴史文化の継承と関わり
- 適切な地域スケールでの産業と人口の効果的なバランス、都市と地方の連携

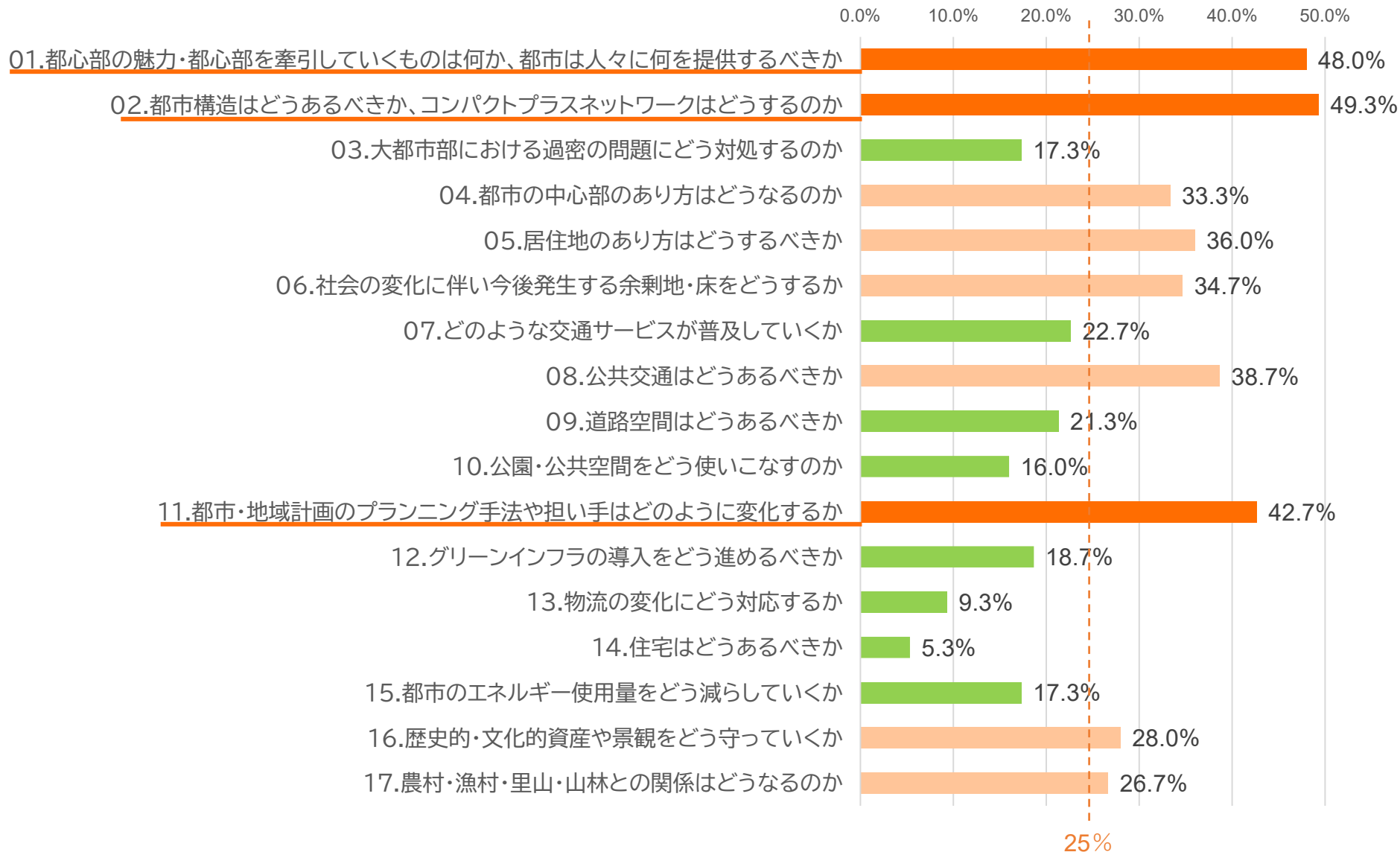
- 論点13について、テレワーク等の導入により、公共交通の需要が減少しているが、安全性を確保したうえで運行することによって、公共交通利用が以前と同等又はそれ以上までに回復すると良いと思う。
- 将来も都市には一定の密度感のある都心（中心）が相変わらずあるが、郊外にも例えば界隈性やサードプレイスの場所、働く場所など従来都心が担ってきた機能が求められるようになる。
- 都心化する郊外に対し、都心にはこれまで以上に特別感やハレの場としての役割が求められ、それが都心を考える時の最も重要なコンセプトになるのでは。
- 公共施設の有効活用
- 小さな単位で多様な視点から地域特性を再認識したうえで、地域の小さな活動を促しながら、そのいくつかを有機的につなぐための道路・交通環境が整うことが理想。
- 脱炭素社会の実現。スマートシティの実現。都市の3D化（バーチャル・シンガポール）
- 2100年も見越した（持続可能な）社会インフラ構築のために、各人の幸福を犠牲にしない中での資産投下。
- コンパクトプラスネットワークの実現かつ、**covid-19**対策での適切な密度維持
- 海拔0メートル地域の解消をしつつ、コンパクトシティを目指す方向
- 住宅の機能を充実させる一方で、家の外での社会的なつながりも何らかの形で確保されていてほしい。
- 通行機能だけの道路は面白くない。道路で商売をしたり、子供が遊んだり、いろいろな利用が許容されるようになってほしい。
- 東京一極集中からの脱却
- 将来的に広範囲に生活拠点が散らばるよりは、ある程度災害に強い都市が点在する形に落ち着くのではないか。

Q2-2-③ 追加すべき論点がありましたら、お聞かせください。 (回答者数 12人)

- 都市内緑地、オープンスペースの確保、自然環境や水辺との関係、緑や川という視点
- 科学技術の進展や新たな生活様式を前提とすれば、もはや用途地域制は不要では。都市内緑地・農地はこれからの都市生活には必要不可欠で、ミックスド・ユースな土地利用が都市の活力・イノベーションの源泉となる。
- 都市間高速交通と地方との関係性の視座は欲しい（都市化はいいことだと思っているので、そのうえで地方を見ていく必要があるのでは）
- 歴史文化の保全・継承、地域のアイデンティティの確認
- 災害に対するレジリエンス。都市（インフラ、建築）のデータ化。都市全体の交通状況（人の流れ、渋滞等）等をリアルタイムで把握し、計画に反映する考え方（リアル統計データから計画・事業の展開）
- どのようにすれば大都市への過度の集中を回避し、地方都市の自立と個性化が実現できるか
- 農林業、漁業、地場産業等の地方都市を特徴づけている産業特性についてどう考えるか。
- 都市における次世代教育についてどう考えるか。
- 感染症に対する都市活動の確保についてどう考えるか。
- 産業集積の在り方、都市内の低未利用地の在り方
- インフラの質の維持やコストの面からの考察。

Q3-① 「都市・地域計画領域における対応」の1～17の論点のうち、特にどの論点が重要だと思いますか。＜最大5つまで＞

(75件の回答)



**Q3-② ①で上げたテーマについて、2050年はどうなってほしい！
こうなるべき！などのお考えがあれば、お聞かせください。
(回答者数 21人)**

- 住民参加。言葉だけではない、計画決定、政策決定への参加を実現すること。行政・市民・民間の協働によるまちづくりが定着し、公共施設や公共機能等を官民連携で作り、運営する取組・手法が一般化している社会であるべき
- スクラップ&ビルド型からストック型の都市空間への転換
- 暮らしたい場所で、暮らせる街
- 都心に余地が生まれるのであれば、郊外化が進んでしまった大学や工業、遊園地や総合運動公園などの大規模な土地が必要で公共性の高いものも都心にあってよいと思う。
- 2050年の都心は、都市の機能や空間は高度化されているべき。例えばオンライン&オフラインでの都心へのアクセス。都市開発やインフラ整備がVRやMRで容易に理解できる。計画づくりの担い手に誰もが気軽に参加できる。
- もっとメリハリのある都市にならないと、財政的にもたない
- 交通サービスについて、MaaSの導入が一般化
- 将来像をインクリメンタルに修正しながら、しかしなりゆき任せにならない、プランニングのあり方について議論を深めることが重要
- 市民との価値観やビジョン共有のためにも、時間を基軸とした都市づくりができるといい。
- 住宅は、家族構成の変化に合わせた住み替えができるように地域居住権サブスクみたいになるといい。
農村漁村等は新鮮や食材や自然に触れ合える場所として、持続的に発展してほしい。
- 大都市と地方都市と公共空間をつなぐ必然性の特色のある街になって欲しい。

- コンパクトプラスネットワークに限らない、今後目指すべき都市構造の方向性が見えてくるとよい。
- 現状では再開発を行うと、どうしても容積を増やす方向に話が進みがちだが、容積を増やさなくても事業が成立しやすい環境が実現してほしい。
- 居住空間が仕事の空間や憩いの空間、休憩の空間、学習の空間、療養の空間など、多目的で快適な空間として使える様になってもらいたい。
- 木陰や風の流れなどを感じながら、海のそばや山の上など、立地している場所の魅力を十二分に満喫できる一体となったプライベートやパブリックの活動空間としての都市空間が使えるようになって欲しい。
- 省エネルギー、持続可能な都市
- 地縁型組織がより身近で、充実したものになってほしい
- 国内での食糧確保の問題が現状より良くなっているとよい

Q3-③ 追加すべき論点がありましたら、お聞かせください。 (回答者数 13人)

- 計画の担い手、住民参加に関する項目
- コンパクトシティの功罪について再検討する必要
- 例えばアート／文化芸術活動はどの論点に入るのか
- グリーンインフラの維持管理
- 現在の都市計画の色塗り・線引きについて、CO₂削減や感染症対策などの視点や、コンパクトプラスネットワークなどの視点も踏まえた検討が必要
- 担い手に含まれるが、都市・地域計画を担っていく主体や推進していく機関（母体）がどうあるべきか、論じるべき。人間らしい暮らしの空間の創造
- バックカスティングの思想は重要であるが、今までの都市計画の限界（広い市街化区域、進まないコンパクトプラスネットワーク、局所的なスポンジ化対策、etc）も真摯に受け止める必要
- SDGsの実現に向け都市・地域計画においてどのように展開していくのか
- 積極的に特区や社会実験を活用し、先進的な都市計画のあり方が実現できるとよい
- 都市計画区域に限定するのではなく、市町村など行政区域において、国土全体を対象とした包括的土地利用計画が必要ではないか。
- 都市における騒音対策についてどう考えるか。
- 都市における歩行者空間、快適空間をどのように考えるのか。
- 高齢化の問題に対して、都市の設計をどのように組み合わせて考えるべきか。オランダにある認知症の人のための街のような存在も必要になってくるのではないか。

Q4 その他、2050年の都市像や社会像について、あるいは当研究会についてご意見ありましたら、自由にご記入ください。 (回答者数 22人)

- テレワークの進展により、大都市近郊に居住する重要性はこれまでよりも薄くなる。ベッドタウンとして発展してきた都市においてもプラスアルファの魅力を作っていくことが重要。
- プレゼン資料が文字を中心に構成され、未来社会を語っているのにとっても時代遅れな発表形式(都市像がテーマなのに、具体的な都市像がイメージできない...)。
- 2050を目標設定するには、もっと想定し得ない前提があると思う。目標年次を前倒しするか、もうちょっと都市と地方の役割イメージみたいな漠然とした議論の方が良かった気がする。
- 歴史を顧みながら、未来に何を残せるかを考えること。30年前の1990年、60年前の1960年、それぞれの社会環境や都市政策、暮らしぶりなどを参考にしては。
- コロナを契機に物事の判断基準が変わったのは事実だが、ワクチン等が開発され、インフルエンザ等と同程度の社会的リスクと捉えることが可能になった場合、コロナ禍以前の価値観に大きな揺り戻しがあるのでは。すなわち、都市は都市であり続け、人が都市活動において求める根源的な部分は変わらないのでは。今回のビジョンで30年後の都市のビジョンを語る中で、重すぎる位置付けにあるのではと危惧している。
- 持続可能な都市づくりの視点から、幅広い分野との連携による都市の在り方を考える必要。ICT、観光、スポーツ、医療・福祉、輸送・物流など。
- ビジョンは固定せずに(案)のままにしておいて、一定期間(例えば3年)ごとに常に修正していくのが良いと思う。
- 将来像の実現には市民との都市ビジョンの共有が特に重要。目指す将来像に沿った、市民が身近に感じられる生活像を多数提示していくような、共感性の高い都市ビジョン、プランニングができればいい。
- 中間とりまとめ、大変参考になった。幅広い世代、若年層の多くの意見、様々なスケールの地域、多くの分野からの視点が入ることを期待。今後の活動、最終アウトプットにも期待。

- 都市計画コンサルタントといった、これからの都市づくりのリーダー役が示すvisionとしては、現在、何をもっとも大切にしながら、都市づくりを進めているかといったことや、2050年で社会がどのように変化しても、この点は、変えないでもらいたいことなどの基本姿勢を示すべきと思う。
- 躊躇することなく大胆に夢があふれる魅力的な未来の都市の姿を表現して欲しい。
- 論点が重複していて、中間報告書の構成がわかりにくい。

アンケートへのご協力ありがとうございました